

～メイン銀行と連携した日本公庫のスタンドバイ・クレジット制度を活用して為替リスクを回避～ 主要取引先の海外生産移転に伴い、タイに生産拠点を設立



タイの工業団地内に建設された現地法人社屋

日本公庫のスタンドバイ・クレジット (SBLC) 制度

SBLC制度とは…
債務保証と同様の目的を持つ信用状を発行する制度で次のようなメリットがあります。

為替リスクの回避
現地流通通貨にて借入を行うことで、現地の事業活動で得た資金をそのまま返済に充てますので、為替リスクを回避できます。

国内法人の財務体質の改善
海外現地法人等が国内法人から資金調達する場合に比べ、国内法人のバランスシートがスリム化します。



1 海外展開の経緯 「アジアのデトロイト」に工場設立

当社の主力事業は、自動車エンジンや駆動系部品の製造です。創業時より大手自動車会社のTier1(1次サプライヤー)メーカーとして、さまざまな部品を提供してきました。2009年、当該自動車メーカーの生産の一部がタイに移転することになり、同社の部品の現地調達に対応するため当社も2011年にタイ現地法人「Mizuki(Thailand)Co., Ltd.」を設立しました。

当社にとっては初めての海外直接投資でしたが、すでにタイに進出していた主要取引先のサポートもあり、首都バンコクから100kmほど離れたヘマラート・イースタン・シーボード工業団地に入居しました。

この工業団地は、近隣にGM、フォード、スズキなどの自動車メーカーのほか、100社以上の自動車部品メーカーが集積する「アジアのデトロイト」と呼ばれ

る地域で、それが入居の決定条件となりました。2012年にタイ現地法人の工場(2,000㎡)が竣工し、現地日系商社のサポートにより、勤勉で定評のある女性を中心に現地社員の募集や指導・教育を行い、工場は順調に稼働しています。当初見込んでいた受注に加え、海外輸出用の自動車部品も受注したことから、2015年にはさらに3,400㎡の工場増築を行い、増産体制を整えました。

2 日本公庫のサポート スタンドバイ・クレジット制度を利用

タイ現地法人の設立時から工場増築時までの拡大過程において、民間金融機関や日本公庫から段階的に資金を調達し、日本本社からタイ現地法人に出資や親子ローンによる貸付を行いました。2015年には増産体制が整備され、現地で事業を拡大するなか、現

地通貨が必要となってきました。そこで民間金融機関と日本公庫に相談し、日本公庫のスタンドバイ・クレジット(以下SBLC)制度を利用することとしました。

当社が利用したSBLC制度は、メイン銀行と日本公庫が連携したスキームで、日本公庫がメイン銀行の債務保証を受け、バンコク銀行に対して信用状を発行するものでした。おかげさまで、日本本社からの親子ローンによる資金調達と異なり、為替リスクを回避することができました。今回の現地銀行との直接取引を契機に、将来的には親会社保証なしで自力で金融調達できることを目指していきたいと思っています。

3 これからの事業ビジョン タイを拠点にアジア圏に販路拡大

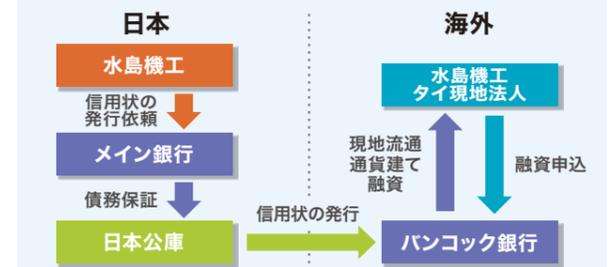
タイ現地法人の工場稼働から6年経た現在、生産は軌道に乗ってきました。タイでは工業団地や金融

機関などが異業種交流会を活発に行っており、系列などを越えた受注が増えてきています。

また、タイ現地法人で行った商談が日本本社の受注につながることもあり、タイ進出の効果がようやく数字として現れはじめてきたところです。

今後はタイを拠点にインドネシアなど他国への輸出を増やし、事業拡大を図っていく方針です。

■スタンドバイ・クレジット制度の利用イメージ図



タイ現地法人の工場内部



タイで生産される様々な自動車部品



社長からのメッセージ 水島機工 株式会社 代表取締役会長 滝澤公一氏



日本公庫のSBLC制度を利用したことを機に、日本本社の取引金融機関の現地支店や現地提携金融機関からの融資のほか、日本からのクロスボーダーローンを利用するなど現地通貨による資金調達を増やしています。SBLC制度利用により、為替リスクが回避できただけでなく、現地金融機関との取引開始にもつながりま

した。タイ現地法人の資金調達では日本本社からの親子ローンなども含めて、それぞれの資金調達方法の特色を理解して、その時々局面に応じて選択することができるようになりました。現地金融機関から直接金融調達を図ることで、現地での資金調達の間口を広げてはいかでしょうか。